

臨床研究「低用量アスピリンによる妊娠高血圧腎症発症予防効果に関する検討」 について

筑波大学附属病院産婦人科では、標題の臨床研究を実施しております。本研究の概要は以下のとおりです。

- ① 研究の目的：妊娠高血圧腎症は妊娠中に高血圧、蛋白尿や母体臓器障害、子宮胎盤機能不全を認める疾患です。加重型妊娠高血圧腎症は、もともと高血圧を持っていた妊婦さんが同様の病態を呈するものです。これらは重症な合併症である HELLP 症候群や子癇発作、常位胎盤早期剥離を起こし、赤ちゃんには胎児機能不全や胎児発育不全など、お母さん、赤ちゃんとも命の危険に晒されます。これらの発症を予防するために、低用量アスピリンが有効であると言われています。当院では危険性が高い方に低用量アスピリンについて説明し、希望のあった方に低用量アスピリンの予防投与を行ってきました。しかしながら、日本国内では PE 発症予防のための LDA 服用は保険適用となっておりません。また、日本人妊婦を対象とした薬の効果について明らかにした研究はまだありません。本研究は、低用量アスピリンの服用により妊娠高血圧腎症/加重型妊娠高血圧腎症の発症予防効果があったかどうかを検討することで、より良い周産期管理を提案することを目的としています。
- ② 研究対象者：当院で 2019 年 12 月～2023 年 1 月までに産まれた妊婦さんのうち、「妊娠高血圧腎症/加重型妊娠高血圧腎症による妊娠 34 週以前の早産歴、子癇発作や HELLP 症候群、常位胎盤早期剥離の既往、高血圧や糖尿病、自己免疫性疾患（全身性エリテマトーデスあるいは抗リン脂質抗体症候群）、慢性腎炎」のいずれかを合併する方。
- ③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2025 年 3 月 31 日まで
- ④ 研究の方法：診療情報（下記⑤参照）を匿名化（誰の情報か直ちに判別できない状態）し、解析します。
- ⑤ 情報の項目：母体年齢、母体体格、基礎疾患、家族歴、既往歴、妊娠・分娩歴、生活歴、妊娠・分娩経過、分娩結果
- ⑥ 情報の第三者への提供について：ありません
- ⑦ 情報の管理について責任を有する者、研究責任者
所属：筑波大学医学医療系 臨床医学域 産科婦人科学
役職：教授 濱田 洋実
- ⑧ 本研究への参加を希望されない場合：妊婦さんや妊婦さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までご連絡下さい。なお、すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。
- ⑨ 問い合わせ連絡先
筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1
所属・担当者名：産婦人科 担当 西田 恵子
TEL：029-853-3073（産婦人科医局）平日 9-17 時